

2015 東京外国語大学（前期日程）【英語】 解答速報

2015年2月25日施行

1 長文論述問題

1.

〈解答例1〉ある陳述が白地に青など目立つ色で書かれると、情報処理が容易になり親近感を生むので、人はその陳述を信じる傾向が増すこと。（59字）

〈解答例2〉人は、紙と文字との色のコントラストが強い場合に、そうでない場合よりもその書かれた内容が真実だと信じやすかったということ。（60字）

2. ①

〈解答例1〉直接的証拠写真でなくとも、ある主張に関連する写真を添えるだけでそれを信じさせる影響がある。（45字）

〈解答例2〉論理的根拠がないのに、写真があることによりそれに関連する記事の信頼度が高まるという影響。（44字）

2. ②

〈解答例1〉ある主張、例えば「マカダミアナッツと桃は進化上同族である」といった主張を、マカダミアナッツの装飾的写真と共に読むと、その主張を信じる可能性が高くなった。（76字）

〈解答例2〉マカダミアナッツ等に関する主張は、その主張を証明するものではないのにそれに関連する写真が載せられた場合の方が、被験者は長くそれを真実だと信じる傾向があった。（78字）。

2. ③

〈解答例1〉発音し易い名前の物や人は好意的に認知され、信頼され易い傾向がある。（33字）

〈解答例2〉人は発音しやすい名前をより安全で信頼できるものと結びつける傾向がある。（35字）

3.

〈解答例1〉馴染みのある名前だと、法廷では証人や専門家が信頼され易く、職場では求職者の履歴書が目立ち易い。また、ニュースでは緩やかに関連した写真があるだけで信頼性が高まる。（80字）

〈解答例2〉法廷では、易しい名前の証人や弁護士はより信頼され、職場では、易しい名前の者の履歴書の方がより目につき、ニュースの中では、写真付きの記事の方がより信頼されやすい。（80字）

4.

〈解答例1〉読み易い字、写真付き情報、発音し易い名前など、認識が容易なものを直感的に正しいと判断してしまうこと。（50字）

〈解答例2〉 処理しやすさを好む人間の性質が影響した、理性で判断するのではなく直感的に感じられる真実っぽさのこと。(50字)

5.

〈解答例1〉 名前や写真の情報が自らの判断に与える影響を認識するだけでも、truthinessを避ける効果があり得る。(47字)

〈解答例2〉 名前や写真が我々の判断に与える影響について知り、自分を戒め、きちんとした出典に頼るように心がける。(49字)

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

- ①lead ②point ③take ④paid ⑤making
⑥follows ⑦boost ⑧end ⑨reached ⑩suggests

3 長文空所(欠文)補充

- ①ケ ②ア ③オ ④カ ⑤キ ⑥イ ⑦ク ⑧ウ

4 リスニング：省略 5 リスニング：省略 6 リスニング＋英作文：省略 《講評》

全体として、昨年度の出題形式・傾向から大きく変わったところはありません。

読解部分では、大問1が、内容説明問題中心のかなり長い長文読解、大問2は、単語レベルの空所補充問題、大問3は、センテンスの一部(節)、またはセンテンス自体の欠如を補う空所補充問題です。

1の内容説明問題は、難度は昨年並みだと思われませんが、一部問われていることに対して本文のどの部分を捉えるのかの判断が難しい問題がありました。比較的狭い文脈の範囲に解答の根拠がある場合と、広範囲の論旨を正確に把握する必要があるものが両方出題されているのも例年通りです。

2の空所補充は、11語の語群から10カ所の空所を補充する点、「必要があれば適切な形に変えて」書くという指定がある点、ともに昨年同様です。語形変化の可能性があるため文法的に正確な判断も要求されています。

3の欠文補充は、9個の選択肢から8カ所の欠如箇所を埋める問題で、これも昨年同様です。しっかりと文脈を追えていれば、解答の根拠を比較的考えやすい問題でした。

一昨年度初めて出題されたリスニングと英作文の融合問題が今年度も出されました。それまで、作文の問題は、日本語の評論文的文章を読み、その要約とそれに関する意見陳述を英語で書くよう求めるものでしたが、日本語を題材とせず、これで英語による講義が題材となる形式が3年続いています。「リスニングと英作文の融合形式」が定着していく可能性が高いと思われます。

トフルゼミナール